



地方税ニ於ケル特別税, 對, 附加税ノ問題

神戸, 正雄

(Citation)

經濟學商業學國民經濟雜誌, 12(5):741-756

(Issue Date)

1912-05

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/00051865>



商業學
經濟學

國民經濟雜誌

第十二卷

第五號

(明治四十五年
五月一日發行)

論

說

地方稅ニ於ケル特別稅、對、附加稅ノ問題

京都法科大學教授

法學博士

神

戶

正

雄

一

近代ノ財政ハ膨脹ヲ通患トス。獨リ國家ノ財政ニ於テ然ルノミナラズ、地方財政ニ於テモ亦タ然ルモノアリ。其結果トシテハ租稅ハ國家ノ其モ地方ノ其モ共ニ膨脹亦膨脹殆ンド底止スル所ヲ知ラザラントス。之ヲ我邦ニ就キテ見ルモ租稅增課ノ急激切烈ナルハ寧ロ地方ニ於テ甚シキヲ感ゼシメ、處ニヨツテハ國稅ノ負擔ハ尙ホ堪ヘ難カラザルモ、地方費ノ誅求ノ頗ル堪ヘ難キモノアルヲ嘆ズル所ナルガ如シ。現ニ我國地方稅ノ總額ハ國ノ直接稅總額ニ匹敵シ、地方ニヨリテハ就中土地

ノ負擔最重クシテ、國稅地租ノ附加税ハ既ニ法定ノ制限ヲ超ユルモ尙ホ收入ノ不足ヲ告グルヨリ、別ニ土地ノ特別稅タル段別割ヲ賦課シ、更ニ戶別割ニ於テ土地財產ヲ標準ト爲シ、之ニ加フルニ同ジク之ニ準據シテ寄附金ヲ強制スルニ至ル處アリトイフ。斯カル情勢ノ下ニ在リテハ、地方財政特ニ地方税ノ問題ハ頗ル緊切ナル時事ノ研究題目タラザルヲ得ズ。固ヨリ之ヲ解決スルノ途ハ獨リ租稅ノ方面ノミニ非ズシテ、經費ノ側ヨリシテモ、將タ租稅以外ノ收入ノ點ヨリシテモ、研究スベキモノ多々アルベシト雖モ、而モ租稅ノ施設ハ最重要ナル關係ヲ有セズンバアラズ。經費ノ節約ノ如キ通例多キヲ望ムベカラズ。租稅外ノ收入亦タ處ニヨリテハ到底依頼スルニ足ルモノアルナシ。斯クテ租稅ハ地方財政ニ於テ通例最重要ナル物體ニシテ、之ガ施設制度ノ如何ニヨツテ及ボス所ノ影響又ハ效果ニ多大ノ相違アリトセバ、之ガ研究ハ決シテ等閑ニ附スベキモノニ非ズ。

二

地方税ノ制定ニツキ研究スベキ題目少カラズ。中ニ就キ附加税對特別税ノ問題ノ如キハ其重要ナルモノ、一タルヲ失ハズ然カモ之ニ關シテハ由來各國ノ立法

例ノ區々ニ出ヅルヨリ、自然人ノ誤解ヲ招キ易ク、或ハ偏見謬說ノ勢ヲ逞フスル嫌ナシトセズ。此ニ之ヲ辯明スルモ亦徒勞ニ非ルベキヲ信ズ。特ニ我國ニ於ケル有力ナル論者ニシテ間々此種ノ弊ヲ殞ツ者アルヲ見ルニ於テハ、愈々之ヲ辯明スルノ價值アルヲ思フ。獨リ我思想界ニ於テノミトイハザルナリ。實ニ先進國ノ學者ノ中ニモ此弊ヲ脱セザル者アリ。例之カイヅルノ如キハ斯問題ニ關シテハ全然附加稅ヲ排斥シテ、直截ニ特別稅ヲ主張シ、附加稅ヲ以テ財政事項ニハ正シカラザル中央集權ノ徵證ナリトシ、且ツ各地方團體ノ特別ノ財政需要ニモ適合セズト斷ジ去リタリ。然レドモ其所謂財政事項ニハ中央集權ガ正シカラズトイフコトガ、果シテ今日ノ財政論ニ於テ一般ニ承認スベキモノナリヤ否ヤ。吾人ハ之ニ對シ否トイフニ躊躇セザル所ナルノミナラズ、各地方團體ノ財政需要ニ適合スルコトノ重要ナルコトハ固ヨリ承認セザルベカラザル所ナレドモ、去リトテ全國ノ統一ヲ保チ概觀シ得ルコトニモ亦タ重要ナル價值ヲ非認スルコト能ハザルナリ。或ハ斯ク極端ナル獨斷定說ヲ述ブルコトヲ敢テセザルモ、一ヲ揚ゲテ他ヲ抑ユルコトライツエンスタインノ如キアリ。即チ彼ハ固ヨリ純然タル附加稅論者ニハ非リシモ、而モ租稅

制度ノ統一及簡單トイフコトノ爲メニ或度マデハ附加税ガ寧ロ特別税ニ勝ルトイヘリ。然レドモ多數ノ諸學者ノ說ヲ參酌シテ予輩ノ今ニ於テ要約シ歸結シ得ル所ノモノハ即チ此等ノ極端又ハ偏倚ノ見解ニ非ズシテ、寧ロ冷靜公平ナル態度ナリ。詳言スレバ(一)先ヅ大體ニ於テ此兩税ニハ共ニ長短アリテ互ニ相助ケ相補フヲ以テ利トスルモノナルコト、(二)次ニ條件ノ如何ニヨリテ兩者ノ價值異リ、各特段ナル條件ノ下ニ適當ナル租税タリトイフコト、(三)而シテ更ニ地方團體ノ種類ニヨリ(四)租税ノ種類ニヨリテモ其適否ヲ異ニストイフコト是ナリ。若モ此見解ニシテ誤ナカランニハ、特別税制度ヲ採ル所ノ英國、附加税制度ヲ採ル所ノ佛國及ビ之ニ傾ク所ノ南獨諸國、白蘭、伊等ニ對シテ我國ガ從來、獨逸諸國ノ大部分、北米諸國、瑞西ノ多クノ「カントン」等ト均シク兩者併用ノ主義ヲ採ルハ寧ロ宜シキニ適ヘルモノトイフヲ得ベシ。

三

暫ラク予輩ノ見解ノ歸結タル右ノ四項目ニ就キ逐次説明スル所アルベシ。先ヅ第一點、即チ兩税ノ長短利害ヨリ之ヲ說カンカ。附加税ノ利益ノ第一ハ地方團體ノ租税制度ガ簡單トナリ、全國統一ヲ得、隨ツテ容易ニ概觀シ得ルコト、第二ニハ地方

團體ニ取り徴收費ガ少キコトヲ得、隨ツテ割合ニ多大ナル純收額ヲ舉グルヲ得ルコト、第三ニハ地方團體ガ國稅ノ正確ナル査定ニ利害ヲ有スルコト、ナリ、隨ツテ國稅ノ賦課徵收ヲシテ正當且ツ圓滿ナラシムルニ與ルコト是ナリ。而シテ右ノ第一點ヨリシテハ理論上將タ實際上一國租稅制度ヲ批評シ改善シ特ニ租稅ノ限度ヲ比較考量スルニ於テ最便利トナリ、第二點ヨリシテハ獨リ地方財政ノ上ニ有利ナル結果ヲ齎ラスノミナラズ、國民經濟上ニモ無用ノ出費ヲ爲サルノ點ニ於テ有利ナル結果ヲ生ズルコト、ナルナリ。第三點ハ就中所得稅營業稅ノ如キニ於テ適用ヲ見ル所ナレドモ、ロツシエルノ如キハ相續稅ニ於テモ此點ヨリ地方團體ニ附加稅ヲ課スルコトヲ許スノ得策ナルヲ說ケリ。然リ而シテ附加稅ノ弊害ノ第一ハ附加稅ニヨリテハ地方團體、特ニ或事情ノ下ニ於ケル或種地方團體ニ適當ナル租稅ヲ有スルコト往々ニシテ可能ナラズ、特ニ夫ノ利益原則ノ斟酌ノ如キ、附加稅ニヨリテハ往々ニシテ唯ダ不完全ニ行ハル、ヲ得ルノミトイフコトナリ。其ノ如何ニ往々ニシテ不都合ナルヤハ後段附加稅ノ條件ノ處ニ於テ知ラル、通りナリ。第二ニハ其徵收ガ容易ナルヨリ、地方團體ヲシテ經費ヲ徒ラニ膨脹セシメ又ハ少クトモ其經費ニツキ不注意ナラシムルコトナリ。斯ルガ故ニ夫ノ附加稅ニ於テ徵

收費ノ少キテフ利益ノ如キハ間々沒却サル、コト、ナルベシ。第三ニハ中央集權ガ其度ヲ失スルコト、ナリ、特ニ國稅地方税ノ限界ガ不明ナル傾アルヨリ一方ニハ地方團體ノ行政當局者ノ責任自覺ヲ弱メ、他方ニ國家ニ給付スルモノト地方團體ニ給付スルモノトニ關スル人民ノ觀念ヲ混雜セシメ、特ニ其負擔ノ印象ガ國家ノ不利トナリ易キコトナリ固ヨリ實際ニ於テハ國稅ト地方税トニツキテ別箇ノ徵稅令書ヲ用ユル所ナレドモ、結局同時ニ配布セラル、ヲ例トスベケレバ、納稅者ニ於テハ地方附加税ノ之ナキ場合ヨリモ、國稅其モノニツキテモ一層重キ負擔ヲ感ズルコト、ナルハ自然ノ數ナリ。此事ハ國稅ノ重キヲ加フルニ於テ一層不良ノ結果ヲ生ズルモノニシテ、斯ノ如キ場合ハ即チ此點ヨリシテハ附加税ヲ避ケザルベカラザルコト、ナレドモ、他面附加税ノ利益タル地方團體ガ國稅ノ賦課徵收ヲシテ正確圓滿ナラシムルコトニ與ルトイフコトハ、國稅ノ既ニ重キ場合ニ特ニ其效果ヲ發揮スルモノナレバ、恰モ附加税ハ一方ニ於テ有利ナル場合ハ他方ニ於テ不利ナル場合ニシテ、換言スレバ或點ヨリ有利ナルモ他ノ點ヨリ十分ニ效果ヲ發揮スル能ハザルコトアルナリ。勿論附加税ハ此等ノ點ノミニヨリテ其價值ヲ決定セラル、モノニハ非ズ、附加税ノ弊害ノ第四ニハ國稅ハ孰レノ國ノ其モ多少ノ不

公正不平等ヲ避クル能ハザル所ナレバ、若モ之ニ附加税ヲ設クルニ於テハ、勢ヒ此
不公不正平等ヲ増大スルノ結果トナラザルヲ得ズ。特ニ附加税ノ増率ヲ行フニ於
テハ間々一層不良ナル結果ヲ生ズルコトアルベシ。第五ニハ地方團體ガ附加税ニ
ヨリテ國家ニ從屬スルガ如ク國家モ亦タ地方團體ノ附加税アルニヨリテ其租稅
改正ヲ躊躇スルノ傾アリ。蓋シ國稅ノ改革サル、ニ於テハ累ヲ地方財政ニ及ボス
コト、ナレバナリ。第六ニハ特ニ附加税ガ一又ハ少數ノ租稅ヨリ且ツ大ナル高サ
ニ於テ課徵セラル、トキハ大ニ道義ヲ紊ス。即チ詐僞ノ申告ヲ増加スルノ掛念大
ナルコトナリ。斯ノ如クニ數ヘ來ルトキハ附加税ノ弊害ハ其利益ヨリモ多ク、隨テ
寧ロ附加税ヲ排斥スベキニ似タリト雖モ、附加税ノ利益、就中其第一第二ノ如キガ
絶對的利益ナルニ反シ、附加税ノ弊害トシテ數ヘラル、モノガ大概條件的ノ弊害
ニシテ、其ノ必生ヲ期スベキモノニ非ルコトヲ注意セバ、其ノ過ギタルヲ感知セザ
ルヲ得ザルベシ。特ニ國民ノ租稅道義心ノ進歩及ビ當局者ノ責任自覺ノ發達ヲ爲
スニ於テハ此税ノ弊害ノ條件ハ大抵排除又ハ少クトモ緩和セラル、コト、ナル
ベシ。加之間々附加税ニ適當ナル國稅ノ求メテ得易キ場合モアルベク、國家ガ地方
團體ノ附加税アルガ爲メニ其租稅改革ヲ躊躇スルガ如キニ至ツテハ實際ニ於テ

太シキモノアルヲ認ムベカラズ、但ダ租税制度ハ假令其制定當時ニハ公正ナルモノナリトモ、時世ノ進歩ニ伴レテ不正トナリ來ルヲ免レズシテ、隨テ附加税アルトキハ遂ニ結局ハ不公正ヲ増大スルノ弊ヲ生ズルコト、ナルベク、且ツ附加税アルガ爲メニ人民ガ國税ニ對シテ感ズル重キ負擔ノ印象ニ至ツテハ、即チ全ク絶對的ノ弊害タルナリ。兎ニ角附加税ノ利弊ハ相匹敵スト見ルヲ妥當トスベシ。而シテ附加税ノ長トスル所ハ特別税ノ短トスル所ニシテ、附加税ノ短ハ特別税ノ長トスル所ナレバ、此兩者ハ互ニ相補助スベク、毫モ互ニ他ヲ排斥スベキモノニ非ズ。然レバ地方團體ニ特別税ノミヲ指定スルノ不當ナルト同時ニ、附加税ノミヲ指定スルモ亦採ルベカラザルナリ。

四

次ニ特別及附加ノ兩税ガ各特段ナル條件ノ下ニ適當ナリトイフ觀察點ヨリスルトキハ、凡ソ地方團體ニ於テ附加税ニヨルヤ將タ特別税ニヨルヤトイフコトハ具體的ノ事情ニヨルベキコトニシテ、或條件ヲ具ヘタル場合ニハ前者ガ他ノ場合ニハ即チ寧ロ後者ガ適當ストイフコト、ナルナリ。即チ附加税ノ存立條件トシテハ第一ニ國税ノ中ニ地方的關係ヲ有スル租税、即チ地方團體ヨリ特段ナル利益ヲ

受クルガ如キ物體ニ關スル租稅又ハ地方團體ノ爲メニ分別スルヲ得ルガ如キ租稅ノ存スルコトナリ。而シテ此條件ノ前半タル地方團體ヨリ特段ナル利益ヲ受クルガ如キ物體ニ關スルモノトイフコトハ是レ地方稅ノ配分原則ヨリ生ズル必然ノ要求ニシテ、地方稅ニハ地方團體ノ給付ニヨリテ特別ニ大ナル利益ヲ受クル者ニ對スルノ課稅アルヲ要ストノ趣意ニ出ヅルモノナリ。此條件ノ後半タル地方團體ノ爲メニ分別スルヲ得ルガ如キモノトイフコトハ、國稅ノ中ニハ間々國內ノ全般ニ交渉シテ到底箇々ノ地方團體ノ爲メニ分別スル能ハザルモノアルヨリ生ジタルナリ。而シテ此條件ヲ最良ク備フルモノハ收益稅、特ニ土地、家屋、營業稅、更ニ不動產交通稅及ビ或種ノ奢侈稅ニシテ、收益稅ニテモ資本利子稅、勞働收益稅ノ如キ、竝ニ所得稅ノ如キモノハ比較的小ナル程度ニ於テ之ヲ充タシ、消費稅ニ至テハ貨物ガ地方團體ノ地域内ニ入ルニ際シテ課セラル、モノ竝ニ地方團體内ノ小賣商人ニ就キテ課セラル、モノ、外、一般ニハ最不適當トス。夫ノ國稅タル消費稅ガ生産者ニ於テ課稅セラル、處ニテモ、附加稅ヲ課スルコトガ必ズシモ不可能ナルニハ非レドモ、此場合ニハ實際唯ダ其地方團體ノ區域内ニテ消費セラル、額ノミニ課稅セラルベク、其區域ヨリ他ニ移出セラル、ニ對シテハ拂戻ノ手續ヲ爲サル

ベカラズシテ實行ハ甚ダ煩雜ナリ。然レバ一國ノ國税制度ニシテ主トシテ收益税ヨリ成リ更ニ不動產交通税、奢侈税ヲ有スル場合ニハ附加税ガ行ハレ易ク、異之國税制度ガ一般所得税消費税等ヨリ成ル場合ニハ特別税ガ大ニ行ハル、ニ至ル。附加税ノ存立ノ第二ノ條件ハ國税ニ於ケル負擔ノ程度ガ甚シク重カラズシテ其上方地方税ヲ附加スルモ國税ノ收額ニ重大ナル損害ヲ與ヘザルコトニシテ、更ニ第三ニハ地方團體ニ於ケル需要ガ頗ル大ニシテ、附加税ニヨリテ之ヲ充タスニ於テハ租税ノ壓迫ガ堪ユベカラザルニ至ルノ程度ニアラザルコトナリ。此等ノ條件アルヨリシテ、通例附加税ニハ一定ノ制限率ヲ定メ、此ヲ超ユルコトナカラシメントスル所ナリ。斯クテ地方團體ノ財政ニシテ簡單ナル情態ニ在ルニ於テハ附加税ノミニヨリテモ能ク其必要ヲ充タスコトヲ得レドモ、其ノ然ラザルニ於テハ勢ヒ特別税ニモヨラザルベカラザルコト、ナル。例之夫ノ小都市及田舎村落ニアリテハ其需要ハ全ク之ヲ附加税ニヨリテモ充タスコトヲ得レドモ、増進止ムコトナキノ職分ヲ有スル大都市ニアリテハ特別税ニヨルコト自然多カラザルヲ得ズ。而シテ右附加税ノ條件ノ反對ガ取モ直サズ特別税ノ條件ニシテ、此他尙ホ特別税ハ爲メニ國税ノ收額ヲ害シ又ハ國税ト牴觸スルガ如ク成形セザルヲ要件トス。例之國家ノ

人的所得稅ノ外ニ地方團體ノ爲メニ別異ナル査定方法ニヨル人的所得稅ヲ設クルガ如キハ此牴觸ヲ生ズルコト、ナル。但シ國家ト同様ナル査定方法ニテ確定サレタル所得ガ別異ノ分級法ニテ地方團體ヨリ課稅セラル、ハ妨ナシ之ニツキワグナ一ノ如キハ國稅タル所得稅ニシテ其賦課方法ノ基礎ガ陳腐ニシテ且ツ不精密ナル場合ニハ地方團體ニ於テ獨立ニ賦課スルハ殆ト避クルコト能ハズトイヘリト雖モ此ノ如キ場合ニモ先ヅ國稅制度ノ改正ヲ促スヲ以テ穩當トセザルベカラズ、異之物稅特ニ土地家屋稅ノ如キニ至ツテハ地方稅トシテノ此種ノモノハ夫ノ利益原則斟酌ノ方便トナルヲ以テ、必ズシモ國稅ト同様ナル標準ニヨルニ及バズ。特ニ夫ノ永キ期間一定不動ナル國稅トシテノ此種租稅ノ外ニ、或特定ノ機會ヲ捉エテ(賣買讓渡ノアリタルトキ)又ハ一定ノ短キ期間毎ニ(例之五年目十年目)土地建物ノ價格ノ變動及上騰ニ伴レテ賦課スル所ノ獨立ノ地方稅ヲ存スルコトハ毫モ妨アラズ。

五

更ニ地方團體ノ種類ニヨツテ異ルベシトイフ點ヨリイフトキハ、田舎的町村地方團體及高級地方團體ニ在リテハ附加稅ガ主要ナル地位ヲ占ムベキモノトス、是

レ畢竟其ノ財政上ノ需要ガ通例單純ニシテ且ツ小額ナルト、夫ノ都市ニ於テ見ルガ如キ特段ナル租税ヲ設クル其他ノ前提ヲ缺クトニヨルナリ、斯クテ此種ノ地方團體ニ於テハ殆ンド専ラ收益税財産税所得税ニ於ケル國税ノ附加税ガ行ハレ、先ヅ特別ノ利益ヲ受クル者ノ爲メニ收益税特ニ地租ノ附加税ガ、次ニハ一般的關係ニ立ツモノ、爲メニ人税即チ所得税ノ附加税ガ行ハルベシ、異之大都市及ビ之ニ近キ地方團體ニアリテハ其職分範圍廣大ニシテ、財政上ノ需要モ大ナレバ、自然附加税ノミニヨルベカラズシテ、特別税ニヨルノ必要大ナルノミナラズ、地方團體ノ爲メ特段ナル利益ヲ受クルガ如キ物體ニ關スル租税ニシテ國税ニ牴觸スルコトナクシテ別ニ課税スルヲ得ルモノアリ、加之間々少クトモ國税ニ牴觸スルコトナクシテ特段ナル消費税ガ行ハル、ヲ得テ而モ其收入ガ頗ル豊富ナルノ望アリ。前者ハ即チ急速ニ變動シ上騰スル所ノ土地建物ノ價格ヲ地方團體ニ於テ獨立ニ賦課スルモノニシテ、後者ハ入市税、奢侈的使用税ノ如キモノヲ指ス。然レバ斯卡ル地方團體ニ在リテハ附加税ノ外ニ諸多ノ特別税ヲ設クルコトヲ得ベク、又之ニツキテ地方團體ニ大ナル選擇ノ餘地ヲ與フルヲ得策トスベシ。但シ入市税ニ至リテハ納税ノ容易ナル割合ニ大收額ヲ舉クルノ長所モアリテ頗ル調法ナル租税タルガ

如キモ、之ヲ賦課スルコトヲ得ンガ爲メニハ場處的ニ少クトモ多少鎖サレタル區域タルコトヲ要シ、此條件ハ多クノ地方團體ノ充タサル所ニシテ隨テ此租稅ガ多クノ處ニ實行スベカラザルモノトナルナリ。特ニ旣ニ久シク行ハレタル場合ナラバ兎ニ角、新ニ之ヲ採用スルトイフニツキテハ躊躇スベキ所以ノモノアリテ存ス。

六

終リニ租稅ノ種類ニヨリテ異ルトイフ點ヨリイヘバ、消費稅及交通稅ハ特別稅トナリ、收益稅、所得稅等ハ寧ロ附加稅タルニ適當スルモノナリ。前ノ兩稅ハ共ニ概シテイヘバ地方團體ニ不適當ナレドモ、唯ダ特ニ都市ニ於テ入市稅奢侈稅及不動産交通稅等ノ形ニテ行ハレ得ルモノニシテ、其行ハル、ハ多クハ特別稅トシテナリ。(尤モ獨逸ノ新法律ニ於テハ土地增價稅ニツキテ國家ト地方團體トガ同時ニ共同的ニ徵收スルノ主義ヲ採ルコト、ナレリ)特ニ奢侈稅ノ如キハ通例ハ國稅ヨリモ地方稅ニ適當スト認メラル。何トナレバ此種ノ租稅ノ課稅物件ハ地方團體ニ於テ監督スルヲ便トスレバナリ。其他公共屠畜場手數料、水道使用料、瓦斯使用料、街鐵賃錢等ノ中ニ事實特別稅トシテノ消費稅ヲ包含スト認ムベキコトアリ。此便利ア

ルコトガ亦タ屠畜場水道、瓦斯街鐵等ノ事業ヲ市營トスルノ一理由ヲ成セリ。右ニ反シテ收益税所得税等ニアリテハ國税ニ於テ良キモノハ地方税ニ於テモ良キコトガ一般ニイヒ得ベク、殊更ニ地方團體ニ於テ制定スルノ必要ナキモノトス。但ダロツシエルノ如キハ土地及家屋税ニツキテハ地方團體ハ國家ヨリモ土地及家屋ノ實際ノ收益又ハ價格ヲ調査シテ課税標準ヲ改訂スルコト容易ナルヲ以テ特別税ト爲スベク附加税ト爲スベカラズトイヘリト雖モ、此ハ少シク過ギタルノ言トイフベシ。租税ヲシテ實際ノ收益又ハ價格ニ伴ハシムルコトハ別ニ之ヲ不動産交通税ノ如キニ行フニ於テハ、收益税トシテノ土地及家屋税ハ据置トスルモ大ナル不都合ナシ、勿論國税トシテノ土地及家屋税其モノニ於テモ努メテ實際ニ近カラシメンガ爲メニ改訂ヲ怠ルベカラザルモノトス。ロツシエルハ又所得税ニ就キテ地方團體ニテハ之ニ累進率ヲ適用スルノ不適當ナルヲ唱ヘタル所ナルガ、此說ニヨルトキハ方今ノ諸國ニ於ケル所得税ノ如ク累進率ヲ採ラザルモノ殆ンド稀ナル世ノ中ニ於テハ、地方税トシテノ所得税ハ附加税タル能ハザルコト、ナレドモ、此ハ寧ロ採ルベカラズト信ズ。蓋シロツシエルハ此說ノ理由トシテ此ニモ利益原則ノ重要ナルト、國家ノ場合ニ於ケルガ如ク消費税等ノ累減的作用ヲ爲スモノヲ

補償スルノ必要ナキトヲ舉ゲタリト雖モ、第二ノ點ハ累進ハ本來此等ノ累減的作
用ヲ補償スルガ爲メノモノニ非レバ重キヲ成スニ足ラザルベク、第一ノ點亦タ所
得稅ガ地方團體ニ採用サル、ハ地方團體ニ於ケル一般的給付能力ヲ課稅スルニ
在レバ當ラザルベシ。但ダ地方所得稅ニ在テハワグナーモイヘルガ如ク小所得ヲ
免除スルノ點ニ於テ必ズシモ國稅ト同高タルヲ要セズ。地方團體ニテハ下級人民
ノ割合ニ大ナル負擔タルベキ消費稅ノ補償ノ往々ニシテ否ナ通例之ナキヲ以テ
ナリ。

七

以上ヲ以テ大要特別稅對附加稅ノ論爭ヲ說了セリ。タゞ此特別稅論者ノ中ニ收
益稅ヲ地方團體ニ所得稅ヲ國家ニ與フトイフノ說アリ。其結果ハ又勢ヒ此論爭ニ
モ交渉シ來ルニヨリテ此ニ一應ノ辯明ヲ爲スベシ。此說ハ元來夙ニ主義トシテ普
魯西ノ採リ其後獨逸ノ數多ノ國ニ模倣サレタル所ナルガ、既ニ理論上ニハフナツ
ケシャル等ノ有力ナル反對說ヲ見タル所ナリ。其反對見解ハ蓋シ此ノ如クスルト
キハ地方團體ニ於テハ夫ノ收益稅ヨリモ一層良ク純然タル給付能力ノ標準ヲ充
タス所ノ課稅ヲ爲シ得ルノ可能ヲ失フコト、ナルベク、特ニ若モ此收益稅ニシテ

資本金子及勞働收益税ヲ缺クニ於テハ、特別利益ノ斟酌ヲ離レテ單純ニ給付能力ノ標準ニヨルノ租税ヲ缺キ、且ツ資本金子及勤勞所得者ハ全ク免税ヲ享クルノ結果トナルトイフニ在リ、加之更ニ國家ヨリイフモ單ニ所得税ノミニヨリテ收益税ヲ採ラザルノ結果ハ單ニ人ニ基キテ課税シ收益ノ得ラル、處ヲ見ザルコト、ナリテ、國家ガ當然課税スベキモノヲ漏ラスコト、ナル。特ニ負債シタル貧國ノ人民ハ富メル債權者國民ノ收得スベキ利子ヲ儲ケザルベカラザルニ、租税收入ニ關シテハ儲クル所ノ國家ハ利益スル所ナクシテ、單ニ享受スル所ノ國家ノ利益トナリ、隨ツテ國家相互ノ間ノ不權衡ヲ生ズベシ。加之收入ノ確實豐富ナル收益税ヲ國家ニ於テ有セザルコトハ今日ノ國家需要ノ大ナル時代ニハ重大ナル損害ナリ。其他租税ノ體系上勤勞所得ト資産所得トヲ差等課税スル上ニモ國家ハ所得税ノ外、收益税アルヲ便トスベシ。但シ此終ノ點ハ所得税ノミニテモ税率又ハ課税標準ノ計算法ノ斟酌ニヨリテ實行シ得ザルニ非ズ、要スルニ全然收益税ヲ地方團體ニ、所得税ヲ國家ニ供ストイフコトハ是認スベカラザレドモ、夫ノ地方團體ニアリテハ重キヲ收益税ニ、國家ニアリテハ寧ロ重キヲ所得税ニ置クコトハ至當ノコトナルベシ。